

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	小テストの実施、業前活動でタブレット端末等を活用した朝学習、家庭学習の課題を設定するなど、基礎的・基本的な内容について、繰り返し取り組む環境づくりに努めていく。家庭との連携しながら、生徒の学習習慣を確立することが課題である。 授業改善に向けては、本年度より学校研究として行っている「個別最適な学び」を、さらに推進していく。基礎的・基本的な知識・技能の習得及び更なる向上のためには、個に応じた指導を進めていくことが重要である。ICTの活用を進め、自分の課題にあった活動に取り組み、学力を向上できるようにしていく。
思考・判断・表現	各教科で見方・考え方を働かせた授業を展開できるようにする。引き続き学校研究を進め、成果を教職員で共有しながら、指導改善に努める。また、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確かにした上で、主体的・対話的で深い学びを行えるような授業を継続して行うことで、思考力・判断力・表現力も同時に高まっていくと考えられる。家庭と連携をとりながら学習習慣を確立し、基礎的・基本的な内容を定着させる環境づくりに努めていく。

①	今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>国語では文法の事項や古典の歴史的仮名遣いの項目、数学では方程式などの正答率が低い。学習内容の定着の個人差が大きい。 <指導上の課題>基礎的・基本的な内容の定着に向け、個別に必要な支援を講じていく必要がある。	⇒	業前活動でタブレット端末等を活用した朝学習を行い、繰り返し取り組むことによって知識・技能を定着させる。【学年の実態に応じた朝学習の実施】 各授業で個別最適な学びを推進し、基礎的・基本的な内容を定着させる。【研究授業の実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題>定期テスト等において、どの教科でも記述の問題への未回答が依然として多い。 <指導上の課題>生徒が自己表現する場の設定や、その過程の評価・指導改善が十分にできていないと考えられる。	⇒	単元末等の活動でパフォーマンス課題を設定し、学びの個性化を図り、思考力・判断力・表現力を高める。【各教科で活動を設定、研究授業の実施】 活動の中に共同編集を位置付け、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする。【市学習状況調査の該当質問項目において肯定的回答が90%以上】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	質問紙調査では、国語・数学共に、「授業内容はよく分かりますか。」という質問に対する肯定的な評価は、市平均を上回る結果となっている学年が多かった。他教科においても同様の傾向がみられる。また、ICT機器の活用に関する質問も、市平均を大きく上回る結果であった。職員研修の実施等を通して個別最適な学びの推進が図られ、各教科で授業改善を進めることができた。一方で学習時間に関する質問項目は、市平均と比べて低い傾向がある。基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け、繰り返し取り組むことが課題となっている。
思考・判断・表現	B	2学期は全教職員が個別最適な学びを意識した研究・公開授業を行い、学習の個性化にも取り組んできた。全国・市・共に質問紙の該当項目における肯定的な評価は高い水準であった。また、学びの指標アンケートにおいても、主体的な学び・探求的な学び・ICTの活用項目は、昨年度のさいたま市平均を大きく上回る結果がでている。思考力・判断力・表現力を高めていくための授業改善はある程度図れている。学習状況調査で市平均に届いていない項目が多いのは、学力の定着に課題があるからだと考えられる。繰り返し取り組む機会の設定が課題である。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	さいたま市学習状況調査の国語において、国語の知識・技能の項目は、市平均と同程度または下回る結果となったが、中2の国語については昨年度の中1の際の市学習状況調査と比べると、数値の上昇が見られた。文法の問題は正答率が市平均を下回る結果であった。数学の知識・技能に関わる問題は、市平均を下回る結果であった。数学の方程式の問題も、昨年度同様低い水準となった。理科・社会については、知識・技能に関わる問題は、市平均と同程度または下回る結果となった。
思考・判断・表現	さいたま市平均との差異は、知識・技能と比べると、多くの教科・学年で得点が高い傾向が見られた。特に国語では読むこと・話すこと・聞くことの内容や、数学ではデータの活用などの項目の数値は比較的高く、市平均を上回るものもあった。また、生徒質問紙の「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」や「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」など、主体的・対話的で深い学びができていますか問う項目は、総合して約90%の生徒が肯定的な評価であった。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	全国学力・学習状況調査の国語において、文法の問題では、正答率が全国平均を大きく上回った。歴史的仮名遣いや方程式については、今回出題がなかった。数学の知識・技能の項目は、全国平均と同程度の水準、国語の知識・技能の項目は全国平均を下回る結果となった。重点をおいている項目については、一定の成果が見られている。今回の調査において、国語では「短歌の表現技法」や「情報の扱い方に関する事項」について、数学では「関数」について、特に知識・技能の正答率が低い傾向が見られた。	
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査では、国語、数学共に、思考・判断・表現の項目の正答率が全国平均を上回る結果となった。生徒質問紙では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目は、95%以上の生徒が肯定的な回答をしていた。このことから、生徒が自己表現する場を設定するよう、授業改善が進んできていると考えられる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(学年・教科の実態把握)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	朝学習は実態によって実施できていない学年もある。テスト前など期間を決めての実施など、取組を推進していく。夏季休業中に全職員で個別最適な学びの推進に向けた校内研修を実施した。	正答率が低かった項目について、教科担当の教員と情報を共有し、重点的に繰り返し指導や演習を行っていく。【教員での課題の共有・朝学習・研究授業の実施】
思考・判断・表現	B	パフォーマンス課題の設定や、学習の個性化を意識した授業の実施を進め、各教科で共有した。2学期には全職員が個別最適な学びを取り入れた公開授業・研究授業を計画している。引き続き評価・指導改善に努めていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)